

自己責任の意識を

金沢学院大卒業式・大学院修了式

421人の門出を祝福

金沢学院大学の第十四回卒業証書・学位記授与式と第四回大学院学位記授与式は三月十六日、金沢市観光会館で行われ、大学四百十人、大学院は十一人がそれぞれ卒業、修了しました。大学の美術文化学部が初めての卒業生八十四人を送り出しました。

美術文化学部から初の卒業生

宮本匡章学長が文学部日本文学科の猪俣直登、国際文化学科・英米文学科の近藤史絵子、経営情報学部経営情報学科の清水貞治、同産業情報学科の本多絵美、美術文化学部美術工芸学科の白矢幸司、同情報デザイン学科の鳥越奈津美、同文化財学科の佐藤円の代表七人の皆さんに卒業証書と学位記を手渡しました。大学院では、修了生を代

答辞を読む宮川さん



謝恩会で挨拶する宮本学長
|| 金沢工クセルホテル東急



表して高橋康子さんに学位記が授与されました。学業成績の優秀者に対する学長褒賞には二十一人が選ばれ、各学部代表の畝村友子、今井梨恵、浅井郁美



新たな門出を祝福した卒業式、修了式 = 金沢市観光会館

の皆さんに褒賞と記念品が贈られました。宮本学長は式辞で、「人生において自己責任を意識せよ」と述べ、飛田秀一学校法人金沢学院大学理事長は告辞で、「広い視野と人脈を持って」と激励しました。下置宏子同窓会長の祝辞に続き、卒業生代表の宮川真理さん（美術文化学部情報デザイン学科）が「大学で培ったエネルギーと築いた絆を糧として、新しい未来社会の構築に励んでいきたい」と答辞を述べました。金沢工クセルホテル東急で開いた謝恩会には教職員、学生ら約二百人が出席し、別れを惜しみました。

美術文化学部

初の卒業制作展

金沢学院大学美術文化学部の第一期生による第一回卒業制作展は三月十六日から五日間、卒業式会場の金沢市観光会館で開催されました。美術工芸学科と情報デザイン学科の卒業生六十人の作品合わせて八十点が紹介されました。会場には、構想と制作におよそ一年間かけた日本画、油絵、陶芸、漆芸、さらにデジタル映像、ポスターなどが並びました。入学以来、四年間をかけて磨いた感性と技能の集大成が来場者の注目を集めました。



卒業制作を鑑賞する卒業生
|| 金沢市観光会館

発行・広報室

人間は、自分がしたことの責任から絶対に逃れることができません。この責任を軽くみならず仕方がないとか、世間の期待に添うより他にない、ということでは、人格や個性を失った人間になってしまいます。

広い視野と人脈を

はなむけに「広い視野」と「広い人脈」を持つという言葉を贈りたい。これらが豊かな人生を約束してくれると考えるからです。視野を広げるためには本や新聞をたくさん読むことです。人脈を広くしていくには、積極的に職場の上司、同僚、地

理事長告辞(要約)

域の人々と接触する努力が必要で、人に話せる事柄を増やすために、知識や教養を深めることが大事であり、そのために勧めたいのが歴史の勉強です。自分のふるさとの歴史とその歴史から生まれた文化を学んで、人に語れるようにしてほしい。

学長式辞(抜粋)

自分が好きなこと、自分にとって関心のあることが何であるかを、まず確認し自覚していただきたい。その上で、実際に行動を起こすときには、サルトルの言う意味での自己責任を常に意識していただきたいと願う次第です。